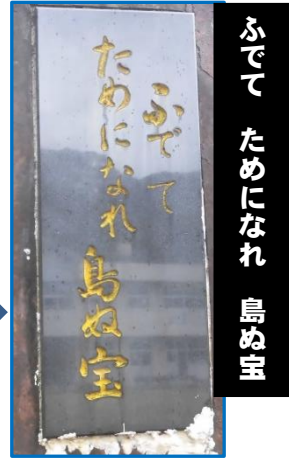




1 この写真でしよう？

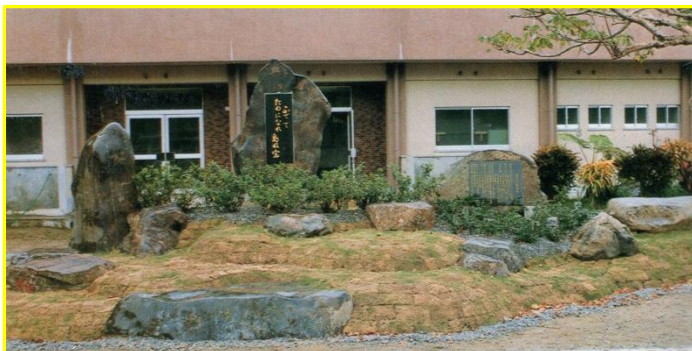


ふでて
ためになれ
島ぬ宝

「岳峯」という名前の付いた庭園です。今、学校の正門横にあります。

今から35年前に、田検小の学校創立100周年を記念して作られたものです。

実は当時、庭園「岳峯」は体育館前に作られました。しかしその後、今の場所に移されたのです。[↓昔]



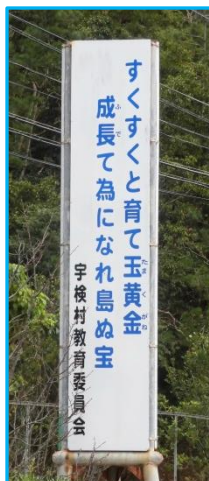
昭和55年11月11日発行『創立百周年記念誌』には、「宇検村の美(岳, 沿線)を造形の主軸として校区民の“親和”の心で、明るく、たくましく育つ子供を想定して…」という説明書きがあります。

宇検村の自然の豊かさと美しさの中で、人々が心なごやかに仲よくして、明るくたくましい子供が育つようにと願って、石碑には「ふでて(成長て) ために(為)になれ 島ぬ宝」と刻み込まれたことが分かります。

2 書かれてある言葉の意味は？

同じような言葉は、武道館前の大きな看板にも書かれています。気付いていましたか？

この言葉には、こんな思いが込められているのではないかと、自分なりに解釈し、心に刻んでいます。「子どもたちは、自分を磨いて磨く



ほどに玉のような輝きを増しながら、すくすくと育ってくれよ。やがて大きく成長して島のため、人のため、世の中のためになってくれ。子どもは島(世の中の)の貴重な宝だ。」

「玉」には、「美しいもの、磨けば光るもの」という意味があり、「黄金」には、「金のように輝くもの、貴重で価値があるもの」という意味が含まれています。

大人に対しては、しっかりとした大人(親)のかわり方で家庭、学校、社会がそれぞれの役割をきちんと果たして教育を施し、子どもを正しく導き、鍛え磨くようにと呼びかけていると思います。

子どもたちに対しては、やるべきこと、当たり前のこと、目標への取組をこつこつと続けながら、すくすくとまっすぐに育っていくようにと教えていると思います。

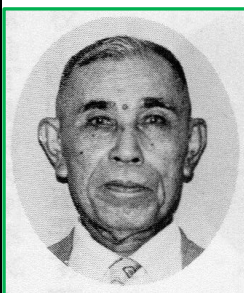
子どもはもちろんのこと、大人も子どもと一緒にすくすくと育ち合っていけば、やがて子どもは健やかに成長して美しい玉となり、黄金色の輝きを放つような立派な人になって、島のため世の中のために尽くしてくれるはずだという深い願いが込められた珠玉(美しく尊い)の言葉であると思っています。

3 この言葉は、だれが作られたのでしょうか？

このことは、日本復帰40周年を記念して平成5年12月に発行された『郷土の先人に学ぶ第4集』(刊行委員会編)に出てきます(P69~82)。学校図書室にもあります。その本の中に、奄美郷土研究家として活躍されている先田光演先生が書かれた「心から島と子供を愛した建築技師 渡武彦」という文章があり、次のように書かれています。

「『すくすく育て玉黄金 成長て為になれ 島ぬ宝』。島嶼を愛した渡武彦さんは、生まれてきた子供は島の宝、すくすく育て島のため、世のために尽くして欲しいという願いを込めてこの唄を作り、子供の健やかな成長を願って、集落みんなで祝う『端午の祝い』を始めました。」

<写真は『創立百周年記念誌』より転載>



渡武彦さんは、明治33年11月25日田検集落に生まれ、平成2年9月7日92歳で亡くなりました。

昭和55年11月11日に挙行された「田検小学校創立100周年

記念式典」をはじめとする記念事業においては、多くの方々からの絶大な信頼と推薦を得て事業推進委員会の委員長を務められた方です。~続く~文責:福田